

研究テーマ	水彩絵の具を用いて造形遊びをする活動を通して、発想力を養う授業の工夫 第1学年 「いろ・色・いろ ～むしさんかくれんぼ～」の実践を通して
-------	---

常総市立菅生小学校 教諭 中村麻美

## I 研究テーマについて

わたしたちの周りには、植物や動物、人工的に作られたものまで無数にある。その物がもつ色について意識的に目を向けると、こんなにも色があったのかという新たな発見がある。今回取り扱う水彩絵の具は、混色して色を作ることができるという特性がある。児童は、クレヨンやクーピーがもつそのままの色だけで色塗りや絵を描いている。そこで、混ぜて色をつることができるということを知り、混色してできる色を感じる機会としたい。また、混色してできる色から想像したり、感じたりすることを通して、発想する力を養いたい。

## II 研究の実際

### 1 題材名 「いろ・色・いろ ～むしさんかくれんぼ～」

### 2 題材の目標

共用の絵の具などを用いて、できた形や色などから思い付いてつくる活動を通し、見つけたよさを伝え合うことができる。

### 3 題材について

#### (1) 児童の実態

本学級の児童（男子12名、女子12名）は、入学して以来、砂や粘土で作りたいものを作ったり、クレヨンで好きなものを描いたりする図画工作科の授業を毎回楽しみにしている。特に絵を描いたり、色を塗ったりすることに関しては、8割以上の児童が楽しいや好きであると感じている。しかし、「何から描いたらいいかわからない」「上手に描かなければいけない」「色を塗ることはめんどくさい」と言っており、クレヨンを持った手が動かなかったり、単色で色を塗る児童も見られる。そこで、水彩絵の具を用いた造形遊びをする活動を通して、偶然できた色や形から発想し表現することに自信をつけさせていきたい。そして、発想次第で様々な表現ができることに気付かせたい。

#### (2) 題材観

本題材は、学習指導要領解説図画工作編第1学年及び第2学年の目標と内容A表現（1）ア「身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること」に関連し、「いろ・色・いろ～むしさんかくれんぼ～」は、造形感覚を養う基礎的な学習として位置付け、絵の具やクレヨンを使った造形遊びを通してできた色や形から発想してつくることをねらいとしている。今回は、赤・青・黄の共用の水彩絵の具を用いて、小さく切ったスポンジや手などで画用紙の上に色をのせていくという活動をする。また、クレヨンで描いた虫を自分で作った色紙を形取ったものでかくすことによって、虫がいる場所や様子のイメージを膨らませながら表現することができる。これらの活動を通して、絵の具の色を混ぜて新しい色を作ることができる発見や色や形からイメージを膨らませる面白さに触れる機会としたい。また、児童が進んで表したり見たりする態度を育て、つくりだす喜びを味わわせたい。

### (3) 指導観

指導にあたっては、絵の具の色の数、絵の具の配置の工夫をし、児童が十分に材料とかかわることができるようにした。また、活動時間は十分に取し、活動場所は児童が自由に移動できるようにし、一人一人が発想を広げることができるようにした。

### 4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
色や形から感じたり想像したりしたことを絵に表す活動を楽しもうとする。	感じたり想像したりしたことを絵に表すために、色を重ねたり、形をかえたりすることができる。	クレヨンや絵の具などを使いながら、表し方を工夫することができる。	感じたことを話したり、聞いたりしながら、形や色、表し方の面白さに気付くことができる。

#### ● [共通事項]との関連

絵の具で色紙を作ったり、虫をかくれんぼさせたりする活動を通して、形や色をとらえ、自分のイメージを表現する。

### 5 指導と評価の計画（5時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ② 本時	絵の具の感触を楽しみながら色紙を作る活動を通して、画用紙にできる新しい色や形、もように興味・関心をもつ。	絵の具や画用紙にできる新しい色や形、もように興味をもち、色紙作りを楽しもうとする。 <div style="text-align: right;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">○</span> 【観察・つぶやき】            色を重ねたり形をかえたりすることができる。  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">□</span> 【作品】         </div>
第2次 ②	拡大昆虫模型に出会い、クレヨンのもつ、濃淡や重なり、ぼかしなどの特徴を生かして、イメージした虫を絵に表す。	拡大昆虫模型を見て、感じたり想像したりしたことを、クレヨンで表現することができる。 <div style="text-align: right;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">○</span> 【観察・作品】         </div>
	色紙と虫の位置を変えながら、虫をかくれんぼさせる。	色や形、もよう、「かくれんぼ」のテーマから、イメージをふくらませ、表し方を工夫することができる。 <div style="text-align: right;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">○</span> 【観察・発表】         </div>
第3次 ①	どんなところにかくれているのか作品をペアで紹介し合う。	感じたことを話したり、聞いたりして、色や形の面白さに気付くことができる。 <div style="text-align: right;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">□</span> 【観察・発表】         </div>

### 6 指導の実際

#### (1) 目標

絵の具の感触を楽しみながら、色紙を作る活動を通して、画用紙にできる新しい色や形、もように関心をもち、新しい色や形を工夫してつくることができる。

#### (2) 主な用具・材料

教師：共用の水彩絵の具（赤・青・黄）、カップ（絵の具入れ）、トレイ（材料入れ）、画用

紙，小さく切ったスポンジ，タンポ

児童：自分で作った色紙（大・小），図画板，クレヨン

### （3）本時の展開

この単元は，児童にとって絵の具遊びを通して，絵の具遊びの楽しさやできた色の美しさを発見できるきっかけになってほしいという願いから設定されている。それに従い，児童がこれらの活動を楽しんでできるかかどうかということをおきながら構成した。

学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <div data-bbox="161 506 783 607" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>さわって おして いろをまぜよう 3つのえのぐで できるかな？</p></div> <ul style="list-style-type: none"><li>・手順を確認する。</li></ul> <p>2 デモンストレーションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教師が例を示す。</li> <li>・児童が試す。</li></ul> <p>3 色紙をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・色の重なりを楽しむ。 黄＋赤 黄＋赤 赤＋青 青＋黄</li> <li>・スポンジやタンポを使ってできる模様や線を楽しむ。</li><li>・絵の具の量を変えて楽しむ。</li></ul> <p>4 できた色紙を紹介しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・方向を決め，できた色の感想や，どんな形に見えるかを発表する。</li><li>・友達の色紙からどんな感じがするかやどんな形に見えるかを発表する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・共用絵の具とスポンジ，タンポを見せながら，手順が理解できるように説明する。</li><li>・絵の具の色は，赤・青・黄の3色を用意する。6つの机のうち，3つには各色単色だけを入れた容器を置き，他の3つの机には，2色ずつ置く。</li><li>・トレイの中に絵の具容器を置き，こぼれてもよいようにする。</li><li>・スポンジに絵の具（黄色）を含ませ，画用紙に押しつけて見せる。タンポに赤を含ませ，黄色に重ね，続けて青のタンポも重ねる。</li><li>・「どんな色になるかな？」などと問いかけながら，想像させながら興味をわかせる。</li><li>・画用紙の上で絵の具が混ざるようにするために，絵の具を含ませるスポンジやタンポは色を決めておく。</li><li>・各机には一つのトレイの上に，絵の具（5カップ），スポンジとタンポを5個置き，自由に使えるようにする。</li><li>・机を自由に移動できるようにするために，図画板の上に画用紙を置き，作業させる。</li><li>・教師も画用紙の上で絵の具が混ざってできる新しい色やもように一緒に驚いたり，思いのままに色を混ぜたり，好きな形を作る様子を見せる。</li><li>・スポンジやタンポを使わず，直接手で色を混ぜてもよいことを伝える。</li><li>・色紙ができた児童には，「素敵な色ができたね！」「世界で1つだけのすてきなもようができたね」など，固定概念にとらわれずに自由に表現できたことを賞賛することで，表現することやイメージを広げることの楽しさを味わわせたい。</li></ul>

#### (4) 授業の様子

##### ①新しい色やもようができる喜びや楽しさのために



↑自分の画用紙に集中する児童

絵の具の色は、赤・青・黄の3色を用意した。教室の6つの机の内、3つには各色単色だけを入れた容器をトレーに置き、他の3つの机には、2色ずつ置いた。

それぞれのトレーには、絵の具、小さく切ったスポンジとタンポを4・5個置き、自由に使えるようにした。児童は画用紙の上で絵の具が混ざってできる新しい色やもように驚いたり、思いのままに色を混ぜたり、好きな形を作ることを楽しんでいた。



↑色が徐々に混ざっていくことを試し、楽しみながら活動する児童



↑多めの絵の具を画用紙に載せ、絵の具を両手で混ぜて楽しむ児童。



↑タンポを使って色を混ぜていく児童



↑手を使いながら、模様作りを楽しむ児童

【新たな色作りの楽しさを味わう場面】

## ②大きな虫との出会いを演出する



大きな昆虫模型を見ながらイメージを膨らませる児童

大きな昆虫を前に、児童は「すごいね！大きいね！描いてみたい！」と歓声をあげていた。ルーペを用意し、手足などの詳しい様子を観察したい児童には使えるように指導しながら渡した。一部分をよく観察することで、「足の先にはトゲみたいなものがたくさんついてるね！」などと言いながら描いていた。また、「世界に一つだけの自分だけの虫にしてごらん。」と助言し、虫の形や色にこだわらず、思いのままに描けるように配慮した。

## ③虫を色紙でかくす楽しさを味わうために



虫をはさみで切り取った後は、大きな色紙の上で置く位置を決めた。次に、自分の描いた虫はどこにかくれているのかイメージさせた。最後に、小さな色紙の色やもようから連想した葉や花を作り、それで虫をかくすことにした。

作った葉や花で虫の胴体を隠したり、頭や足だけを出したりしながら、具体的な虫のイメージを膨らませていた。児童たちは「あたまが見えているよ～！分かった！これはチョウだ！」などと自然と会話を弾ませていた。



作った花や葉で虫をかくれんぼさせている場面

## ①作品を通して友達との交流を楽しむ



【作品を通して友達と交流する場面】

鑑賞は机のない教室で行った。教室の中に一つの大きな二重円を作り、内側の児童は固定し、外側の児童だけが右回りにまわるように設定した。

児童は順々にペアを組み、紹介し合った。役割を分かりやすくするために、紹介する側がイスに座り、鑑賞する側は床に座ることにした。作品を相手に見せ、「〇〇はどこにかくれているでしょう。ここにいるのは、何の虫でしょう。」とクイズ形式にして紹介した。児童は、作品の気に入った部分を指さしながら「この形がすごいね。この色がきれいだね。」と児童の作品を具体的に賞賛する言葉が聞こえた。



## 7 成果と課題

この単元を児童はおおいに楽しみながら活動していた。小学校入門期の児童にとって、絵の具の色が混ざる特性やクレヨンを混ぜて使用することの楽しさを体感できたことは有用であったと思う。また、「むしさんかくれんぼ」という題材名から、児童の意欲や想像力を引き出すことはできた。

しかし、せっかく描いた虫を色紙でかくす事は、児童の願いに当てはまっていたとは言えない。実際に隠さずに虫の周りに色紙を貼って作品を仕上げた児童も多かった。

今後は児童の発想や活動を予想し、それにあった魅力的な題材名を考えられるようにしていきたい。